海外臨床薬学研修 報告書

研修期間：令和7年2月12日～令和7年2月21日

所属：名城大学薬学部薬学科

学年：5年

学籍番号：200973131

氏名：佐藤香英

1.参加目的

実務実習を終えて、日本での医療制度や薬剤師の役割についての知識を得た今、アメリカでの薬局・病院での薬剤師の役割、薬学教育制度、日本との違いを学びたいと感じた。また、薬学の知識を広げ、将来に向けてグローバルな視野を持ちたいと考えこの研修に参加した。

2.研修内容

【研修テーマ】日本とアメリカの医療制度と薬剤師の役割

【研修日程】

月日	研修内容
2月13日	オリエンテーション 〈講義〉アメリカの薬学教育、インド出身薬剤師のキャリア、服薬アドヒアランス向上の工夫
2月14日	〈病院見学〉Banner-University Medical Center 〈講義〉ジャマイカ・サウジアラビア出身の薬学生、感染症・HIV/AIDSについて、アメリカの医療制度
2月17日	〈調剤〉VCM投与設計・注射剤調製 〈講義〉尿路感染症について、薬剤師によるワクチン接種、精神科薬剤師、サウジアラビア出身薬剤師のキャリアについて
2月18日	〈見学〉Pharmacy Museum、Poison Center 〈講義〉医療安全、患者や医療者が感じるストレス、医療の質について
2月19日	〈見学〉CVS Pharmacy 〈発表〉お薬手帳について 〈講義〉感染症、ディレクター薬剤師について、オピオイド使用について（レジデントによる講義）

【研修内容の詳細】

講義ではアメリカの薬学教育や薬剤師の役割、他国出身の薬学生、薬剤師免許取得後の様々なキャリアを学ぶことができた。日本では大学での6年間の薬学教育が行われるが、アメリカでは2年のPre-Pharmacy、4年間のPharmD programの後に薬剤師免許取得する。また、実務実習の時間は日本の倍以上であり、授業後もドラッグストアや調剤薬局で業務を行う学生が多いなど教育制度の違いがあった。病院見学では日本と同じ点も多かったが、薬剤師と同数のテクニシャンが在籍し調剤はテクニシャンが中心に行うこと、患者さんの入れ替わりが日本と比べて頻繁であること、医療費が高額であることなど異なる点も多かった。

ドラッグストアでの見学では、薬のほとんどが PTP シートではなくボトルで患者さんに渡され、調剤はファーマテクニシャンによって行われており、日本との違いが大きかった。さらに、服薬指導は患者さんからの要望があったときのみ行うことなど、大きな違いがみられた。OTC 医薬品もボトルで販売されることが多く、日本より種類や量に規制が少ないと感じた。

アリゾナ大学の学生と交流できる機会もあり、将来働きたい場所や講義内容の違いなどを共有することができた。

3.感想

10 日間の研修では、アリゾナ大学での講義や病院などの見学、普段では経験することのできないことが多く、貴重な経験となった。

アメリカの薬学教育制度、薬剤師の役割や医療制度を学び、日本と比較し共通点・相違点を理解することができた。また、各国の制度において問題点を抱えていることも理解できた。アメリカでは日本のような国民皆保険制度はないため、病院の受診が日本よりも容易ではなく、入院やリハビリには多額の費用がかかり、医療へのアクセスの悪さが問題となっていた。この点では、医療費の増大が問題となっている日本とは対照的であり、日本の医療制度のメリット・デメリットを深く考える機会となった。

さらに、アメリカには日本よりも多くの国籍の人々が生活しており、日本では見られない問題や必要な知識も多いと感じた。他国の医療を学び、それを自国に活かすことの重要性も実感した。

アメリカでの講義では、積極性が求められる場面が多く、参加した講義では学生が積極的に質問したり答えたりするなど、刺激を受けた。また、実務実習時間が多く、ワクチンの接種もできることなどからも、薬剤師の業務内容が広範囲にわたることを実感した。また治療では、患者さんから要望があった際に対応するなど、患者本意の治療だと感じた。今後、研修で学んだ積極性を活かし、将来に向けて努力していきたいと考える。

本研修では、アメリカでの医療を学ぶとともに、薬剤師の役割に対する理解が深まり、アメリカでの薬剤師業務を見学することで将来への視野が広がったと感じている。今回学んだことを基にこれからも積極的に学び、将来につなげていきたいと感じる。

最後に、このような貴重な機会をいただいたこと、現地でのサポートや先生方に深く感謝申し上げます。